

博士前期課程

教育研究上の目的

専門教育の中でも特に実習や演習を重視し、現場での実地体験を積み重ね、個人や社会の臨床心理学的課題への対処の方略を獲得し、共感と支援資質を陶冶する。密度の濃い個人指導を通じて臨床心理技術の実務者、特に臨床心理士、公認心理師などの専門職育成を目的とする。また、修士号取得者として、人間の福祉に関わる諸課題への科学的考察能力、考察の基盤となる科学的資料の収集能力、科学的知見の社会への還元能力の素養を身につける。

教育目標

本学の教育目標及び本領域の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程臨床心理学研究領域では臨床心理技術の実務者、特に臨床心理士、公認心理師などの専門職育成を教育の目標としている。また、同時に修士号取得者として、人間の福祉に関わる諸課題への科学的考察能力、考察の基盤となる科学的資料の収集能力、科学的知見の社会への還元能力の素養を身につけることも目標としている。

現在、我が国の企業はグローバルな経済競争に晒され、1990年代まで続いた経済の高度成長期に形成されていた終身雇用制、年功序列の昇進及び昇給の体系が見直される時代に入り、国民は生活者・労働者としてのあり方を見直すように求められている。この急激な変化の中で考え方の変化を求められ、その戸惑いの中で深い困惑や心理的な問題に悩む人々が増えている。このような状況では欧米から輸入してきた既存の臨床心理学では対応困難なことが予想され、臨床心理技術者は時代の動きの中で心がどのように動くのか、どのような支援を行えば心と行動が安定化に向かうのか、適切に見ぬく高度な専門性が求められている。

本課程では、偏りのない臨床心理学及び周辺分野の体系的な学修、学内及び学外専門機関実習経験、現代の我が国で求められている臨床心理学の基礎研究を通して、生活者・労働者としての人を深く理解・受容し、適切な支援を提供できる高度な専門性を育てることを教育目標として定める。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、人間科学専攻博士前期課程の学位授与の方針に掲げる能力に加え、臨床心理学分野に求められる下記の能力を身につけていると判断され、修士（人間科学）の学位が授与される。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 柔軟で主体的な判断力を身につけている。
- (2) 臨床心理士としての可能性、自覚と見識、その職務遂行のための理論と実践力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 人を深く理解し、実践的に課題解決策を見いだすことのできる専門職業人としての能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 臨床心理学分野に関する専門知識を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究領域博士前期課程では、臨床心理学分野に関する専門知識に基づく主体的な判断力を持ち、人を理解し、実践的課題解決ができる専門職業人の能力を育成し、かつ臨床心理士受験資格及び公認心理師受験資格の取得のために、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定している。

1. 教育課程の編成・実施

- (1)「人間科学特別研究(演習)」を必修とし、指導教授による指導を密にし、修士論文の作成に向けて、課題の設定、文献研究、現場調査、学会発表等の研究指導を行っている。
- (2)臨床心理学分野に関する基本的理解と幅広い視野を獲得できるよう、臨床基本科目群、選択科目群に分けて、豊富な講義科目を設けている。
- (3)臨床心理学研究領域において、臨床心理士、公認心理師の受験資格を目指す者は臨床実習科目群から定められた科目を履修し、修士論文の課題を設定し修士論文を制作する前段階として文献研究、現場調査、学会発表等の研究指導を行うことにより理論的知識や能力を基礎として、実際にそれらを応用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけさせるとともに、実践的教育に力を入れている。
- (4)TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意している。

2. 教育の方法と評価

- (1)研究指導は指導教授のもとでの演習を基本として行われ、専門分野の知識を深め、技能を修得するよう支援する。その上で、柔軟性のあるカリキュラムによって関連分野の複数の教員による多様な指導が受けられ、自主的に学問する能力を磨くことができる。
- (2)徹底した個別指導により、独創的な発想に立った研究と、その成果に基づく論文の完成へと導く。
- (3)計画・遂行・発表を含む修士論文研究の中間審査、及び本審査を介して、研究課題解決能力とプレゼンテーション・コミュニケーション能力の評価を行っている。これらの評価は、公正性と厳格性を保つため、複数の専門教員で実施するようにしている。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

研究から得られた科学的知見を現代社会に還元する能力と、それに根ざした臨床心理の実務能力を徹底したスーパービジョン・システムと少人数教育を通して養成する。

2. 本領域の求める入学者

- (1)人間に関する深い関心を有する人
- (2)臨床心理学及び臨床心理技術の習得を目指す学習を可能とする学部卒業同等の臨床心理学、心理学、関連科目の基礎知識を備えた人
- (3)臨床心理士、公認心理師などの専門職として個人の福祉と社会の発展への貢献に意欲を有する人

3. 大学までの能力に対する評価(選抜方法)

臨床心理学研究領域博士前期課程では、入学試験を通じて、臨床心理学の専門・基礎知識や語学力を備え、臨床心理士、公認心理師などの資格取得への意欲を有する学生を受け入れる。

博士後期課程

教育研究上の目的

高度な研究能力と臨床力を涵養し、心理臨床分野における自立した研究者、また心理臨床家の指導者の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本領域の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程臨床心理学研究領域では、現代社会の臨床心理学的問題に対応できる新しい心理臨床を提案できる指導者レベルの心理臨床家の輩出を教育の最終の目標としている。

現在、我が国の企業はグローバルな経済競争に晒され、1990年代まで続いた経済の高度成長期に形成されていた終身雇用制、年功序列の昇進及び昇給の体系が見直される時代に入り、国民は生活者・労働者としてのあり方を見直すように求められている。この急激な変化への戸惑いから心理的な問題に悩む人々が増えている。また、急激な少子高齢社会の展開によって、高齢者、若年者及び現役世代の社会における役割や位置づけが変わる中で、国民全体が戸惑いを禁じ得ない状況もある。このような状況に対応するべく、臨床心理学は常に時代の動きを読み、適切な支援を用意することが求められている。

本課程では時代のニーズに対応した臨床心理学研究を通して、現場の臨床心理士をイノベートし、生活者・労働者としての人を深く理解・受容し、次世代の臨床心理学をリードする高度な専門性を育てることを教育目標として定める。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、人間科学専攻博士後期課程の学位授与の方針に掲げる能力に加え、臨床心理学分野に求められる下記の能力を身につけていると判断され、博士（人間科学）の学位が授与される。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 柔軟で主体的な判断力を身につけている。
- (2) 臨床心理士としての実践力、及び指導者又は自立した研究者として社会貢献できるための研究能力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 人を深く理解し、実践的に課題解決を見いだすことのできる高度専門職業人としての能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 人間科学または臨床心理学分野に関する高度な専門知識を身につけている。
- (2) 研究活動を通じた企画・運営・管理能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究領域博士後期課程では、臨床心理学分野に関する専門知識に基づく主体的な判断力を持ち、人を理解し、実践的課題解決ができる高度な専門職業人の能力を育成し、それぞれの実践領域における指導者又は研究者を目指すために、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定している。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 「人間科学特殊研究(演習)」を必修とし、後期課程の全年次において独創的な優れた研究を自立

して遂行し、成果を公表する能力と技術を陶冶し、博士論文の完成へと導く。

- (2)「文献研究」「企画研究」「課題研究」「実践研究」を各半期の演習と定めてこれを必修とし、段階的に高度な専門的研究の遂行を促し、研究及び教育を指導する能力と技術を実践的に体得することを目標とする。
- (3) 研究課題に関する文献(英語を中心とする学術論文、外国語書物等)の講読により先行研究に学び、問題を明確化するため、「文献研究」を必修とする。
- (4) 定めた研究課題に対する方法の選択、企画書作成等の実行、訓練を目的として、「企画研究」を必修とする。
- (5) 企画に沿って実験及び調査等によってデータを収集し、解析する能力を身につけさせるため、「課題研究」を必修とする。
- (6) 実践力を重視する観点から、他研究機関との研究交流及び研究課題との関連での現場視察、リサーチ、調査等の研究を目的として、「実践研究」を必修とする。
- (7) TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意する。

2. 教育の方法と評価

- (1) 研究指導は指導教授のもとでの演習を基本として行われ、専門分野の知識を深め、技能を修得するよう支援する。その上で、柔軟性のあるカリキュラムによって関連分野の複数の教員による多様な指導が受けられ、自主的に学問する能力を磨くことができる。
- (2) 徹底した個別指導により、独創的な発想に立った研究と、その成果に基づく論文の完成へと導く。
- (3) 計画・遂行・発表を含む博士論文研究の中間審査、及び本審査を介して、研究課題解決能力とプレゼンテーション・コミュニケーション能力の評価を行っている。これらの評価は、公正性と厳格性を保つため、複数の専門教員で実施するようにしている。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

高度な研究能力と臨床実践力を培い、臨床心理学における自立した研究者、及び心理臨床家の指導者を育成する。

2. 本領域の求める入学者

- (1) 人間に関する深い関心と博士前期課程修了程度の学力、援助能力を有する人
- (2) 人間の福祉と臨床心理学への深い関心を有し、将来、それぞれの実践領域における指導者又は研究者を目指す学習を可能とする研究・実践能力と意欲を有している人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価(選抜方法)

臨床心理学研究領域博士後期課程では、入学試験を通じて、人間に対する深い関心を有し、臨床心理学的思考・研究能力・援助能力を有する学生を受け入れる。